

事業NO. 601	事業名	三鷹駅前広場第2期整備事業の推進①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------------	----------	-------

評価対象事業名	三鷹駅前広場第2期整備事業の推進				部課名	まちづくり建築課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第2部第6・2-(2)-	係名	再開発	内線	2861			
計画事業名	三鷹駅南口駅前広場第2期整備事業の推進				歳出科目	款	再開発費	項	再開発費	目	再開発事業費
関連計画	三鷹駅前地区再開発基本計画				再開発会計	事項	三鷹駅南口駅前広場整備事業費				
					補助区分	国	都	市単独			

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 三鷹駅南口駅前広場整備事業は、現在の広場を約2倍の広さに拡張し、交通機能の充実やデッキによる歩行者の安全性の確保、バリアフリーへの対応、玉川上水と一体になった景観整備等を行い、良好な広場環境を創出する。また、デッキの拡張により、駅ビルとの接続はもとより駅前広場に面する街区とのアクセスが図れ、利用者の利便性と商業振興に寄与する。

概要 三鷹駅南口駅前広場整備事業は、現在の広場を約2倍の広さに拡張し、交通機能の充実やデッキによる歩行者の安全性の確保、バリアフリーへの対応、玉川上水と一体になった景観整備等を行い、良好な広場環境を創出する。また、デッキの拡張により、駅ビルとの接続はもとより駅前広場に面する街区とのアクセスが図れ、利用者の利便性と商業振興に寄与する。

始期 8 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人 または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

平成16年度は、天候の関係から若干工程が遅れている。今年度は、安全性に配慮しながら工程の遅れを取り戻し、予定どおり供用を開始する。

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

①JR東日本(株)と「駅ビルとデッキ接続について」協議。②Aデッキ架設、緑の小ひろば整備、既存歩道部分の改修。③完成記念式典開催。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

①工事完了。②完成記念式典開催。③西地区デッキ延伸の実施設計。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

立川駅北口は、広場面積11,300㎡、デッキ4,400㎡、エレベーター1基・エスカレーター4基、で、事業費634億円。

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	①地取得約1,230㎡②実施設計の完成	①用地取得約50㎡②Bデッキ架設③三鷹橋架け替え④既存歩道の改修⑤JRとの協議	①Aデッキ架設 ②東側部分街路築造 ③車道打換 ④西地区デッキ延伸実施設計⑤JRとの協議	完了
まちづくり指標	①用地取得率100%(公社取得含む) ①行政指標 ②協働指標	①用地取得98% ①Bデッキ供用開始①三鷹橋架替①既存歩道の改修	①工事完了、①完成記念式典開催、①西地区デッキ延伸実施設計完了	①工事完了、①3月25日完成記念式典開催、①設計完了
予算額(千円)	1,835,001	1,073,392	997,729	997,729
決算額(千円)	1,418,032	933,469		993,008
執行率(%)	77.3%	87.0%		99.5%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画		JRと協議 工事	→									○ 記念式典
結果		JRと協議 工事	→									→ 記念式典

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 601	事業名	三鷹駅前広場第2期整備事業の推進②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
工事は順調に進んでいる。安全に配慮しながら、年度末完成を目指して取り組んでいく。	
主管課中間評価	
コスト面	1 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事業完了
成果面	1 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事業完了
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由) 事業完了
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 完成に向け安全に配慮し事業を進めることが望まれる。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
広場の使い方についてルールを明確にし周知すること。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	理由		当初計画のとおり竣工し、完成記念式典を実施した。
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	理由		まちづくり指標も全て達成した。
	効率性・経済性に対する評価	2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
	理由		当初の構想からデッキの規模を縮小したが十分な効果が得られている。
	総合評価及び次年度の実施方針		中央線沿線の駅前広場としては、立川駅、八王子駅などに次ぐ規模の広場となるとともに、玉川上水と一体化した整備という三鷹ならではの特色があるため、評価を得ている。
	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	効率性・経済性に対する評価	2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
総合評価		第2期整備の完了により、風の散歩道など一体的に接続することが可能となった。西側地区協同ビルへのデッキの延長整備による利便性や安全性の向上に向けて、進行管理を確実に進めていくことが望まれる。	

事業NO. 602	事業名	すずかけ駐輪場の整備①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------	----------	-------

評価対象事業名	すずかけ駐輪場の整備			部課名	都市整備部道路交通課			
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第5・3 (5)	係名	都市交通係	内線	2883
計画事業名	駐輪場整備の推進			歳出科目	款	2. 総務費	項	1. 総務管理費
関連計画				一般会計	事項	7. 放置自転車等対策関係費		
				補助区分	国	都	市単独	

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 三鷹駅南口周辺には、約7,000台の駐輪場があるが、歩道上の放置自転車が後を絶たず、駐輪台数の絶対数が不足している状況である。また、既存駐輪場のうち約60%が借地であり、将来に向けて安定的駐輪場の確保をするためには、公共用地の確保及び土地の有効活用を行う必要がある。については、平置式駐輪場を機械式立体駐輪場に整備することにより、全体の収容台数の適正化を図り、放置自転車台数を減らし、安全の確保を優先しながら歩行者等が安心して通行できる交通環境の整備を行う。

概要 平成16年度土地開発公社から買い戻したすずかけ駐輪場隣地を含めた一体的な整備を行い、機械式立体駐輪場を建設する。  
 取得用地面積 217.52㎡ 駐輪予定台数 1,700台  
 既存駐輪場面積 446.98㎡  
 合計 664.50㎡

始期 16 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0人 または 0.0時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

平成16年度すずかけ駐輪場機械式立体化工事の実施設計が完了し、本年度は、国の臨時交付金の交付を受け建設工事を実施する。この工事により、580台であった駐輪台数が約1,700台となり、大幅な収容台数の増を図る。

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

土地開発公社から用地(217.6㎡)を買い戻し地下式機械式立体駐輪場 8基(180台/基) 電磁ロック式ラック式駐輪施設260台 管理施設 1棟 その他 1式を設置する。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

市有地化した用地に機械式立体駐輪場の整備を行うことにより恒久的な駐輪スペース1,700台を確保する。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量		①平成17年2月18日土地開発公社にて用地取得	・土地開発公社から用地(217.6㎡)の買い戻し及び機械式立体駐輪場の建設 ・自転車等の放置防止に関する条例の一部改正及び自転車等駐輪場設置条例の制定 ・指定管理者の決定	・土地開発公社から用地(217.7㎡)の買い戻し及び機械式立体駐輪場の建設(約60%)が完了 ・自転車等の放置防止に関する条例の一部改正
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標		①機械式立体化工事的设计委託業務の完了	①1,700台駐輪可能な機械式立体駐輪場の整備を行う ①自転車等の放置防止に関する条例の一部改正及び自転車等駐輪場設置条例の制定	①自転車等の放置防止に関する条例の一部改正
予算額(千円)		11,670	836,991	836,991
決算額(千円)		11,655		282,419
執行率(%)		99.9%		33.7%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
当初計画		工事告示 ○	入札 ○	市議会議決 ○					機械式立体化工事 ○	一期工事完了 ○		指定管理者の決定 ○	指定管理者による利用者の公募 ○	工事完了 ○	供用開始
結果		工事告示 ○	入札 ○	市議会議決 ○					機械式立体化工事 ○			指定管理者の決定 ○	指定管理者による利用者の公募 ○		

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 602	事業名	すずかけ駐輪場の整備②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		工事期間中すずかけ駐輪場利用者のより一層の安全確保のため、代替駐輪場を確保した。今後は近隣に対する振動、騒音について十分に配慮するとともに、工事期間中の安全確保に努めていく。		
中 間 評 価	主管課中間評価			
	コスト面	1	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 平成17年度完成により建設費相当額が減少するとともに、管理運営については、利用料金制により行うため。	
	成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 駐輪台数の増加により放置自転車減少が図られるとともに、受益者負担の観点から有料化が推進され、公平性が増す。 今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について 1 ある ない その他 (理由) 指定管理者制度の導入	
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)			
		妥当である 改善の余地あり 抜本的見直し必要	意見	駐輪場の地下化、指定管理者制度の導入といった新しい手法を取り入れた事業であり、他の事業にも生かせるような先例となることが期待される。
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)				

### 《事業の事後評価》

事 後 評 価	主 管 課 評 価	進捗状況評価	3	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 現場内での事故により、1ヶ月間の工事休止期間を含め3ヶ月間工期が延伸した。(3/31現在、出来高約60%)	
		成果に対する評価	3	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 土地開発公社より用地の買戻しを行い、駐輪場用地の確保ができ、機械式立体化工事を行ったが、現場内で発生した事故のため工事が遅れている。工事完了後は、1,700台の収容台数の駐輪場が確保される。	
		効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 工期が延伸したことにより、平成18年度へ繰越になってしまった。	
	審 査 会 評 価	総合評価及び次年度の実施方針			
		平成18年7月のすずかけ駐輪場の機械式立体化(地下方式)工事の完了により、1,700台の駐輪台数が確保され、放置自転車対策の一環として駐輪場の確保が大きく前進する。			
		進捗状況評価	3	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	3	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
総 合 評 価	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 工事現場内において施工業者による不慮の事故が発生し、結果として工期は延伸したが、事故発生後の迅速かつ適切な対応により、工事の遅れも最小限にとどめることができた。今後は平成18年7月の開設に向けて、指定管理者との調整を図りながら円滑に準備を進めることが必要である。		

事業NO. 603	事業名	コミュニティバス運行経路等見直し事業①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

評価対象事業名	コミュニティバス運行経路等見直し事業			部課名	都市整備部道路交通課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第5・2-(2)-	係名	都市交通係	内線	2883		
計画事業名	コミュニティバス運行経路等の見直し			歳出科目	款	2. 総務費	項	1. 総務管理費	目	14交通安全対策費
関連計画				一般会計	事項	12. コミュニティバス関係費				
				補助区分	国	都	市単独			

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 平成10年の導入以来5ルートで運行しているコミュニティバスについて、これまで寄せられた意見、要望を踏まえ、更なる交通不便地域の解消と利便性の向上を図るため、運行ルート、運行本数、利用料金等について抜本的見直しを図る。

**概要** コミュニティバス総合調査業務委託を発注し、アンケート調査や懇談会等により市民の意見や要望を十分に考慮する中で、コミュニティバス事業の基本方針を確定し、これに基づいて見直し優先順位の高いルートについて、運行実施計画を策定し、早期の運行を実現する。

始期 16 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人 または 0.0 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**  
平成16年度に作成した調査業務基礎資料を基に、調査業務委託を発注しコミュニティバス運行路線の抜本的見直しを行う。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
コミュニティバス総合調査業務を発注し、運行路線の精査、運行ルート地域特性の調査、アンケート調査及びヒアリング等を基に、事業の基本方針を確定し、見直し優先順位の高いルートについて、見直し路線に対する運行実施計画を策定する。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
コミュニティバス総合調査を行い、見直しに対する基本方針と具体的なルート変更など見直しを行うための実施計画を策定し、早期に市民の利便性の向上を図る。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)**

年度別明細	H 1 5 年度	H 1 6 年度	H 1 7 年度目標	H 1 7 年度達成
事業・業務量		バス事業者との協議及び市内での調査・検討	平成16年度で作成した基礎資料を基にコミュニティバス総合調査業務の実施し、18年度以降の見直し路線を決定、実施計画を策定する。	コミュニティバス総合調査業務が完了し、報告書が提出された。
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標		①調査委託業務に向けた基礎資料の作成	①コミュニティバス総合調査業務の完了及び基本方針・見直し路線の実施計画の策定	①コミュニティバス総合調査業務の完了及びコミュニティバス事業基本方針(案)の提出
予算額(千円)		20,000	33,755	33,755
決算額(千円)		10,788		24,179
執行率(%)		53.9%		71.6%

**年間の実施スケジュール**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画			プロポーザル ○	委託業者決定 ○			総合調査業務 ○					調査報告書提出 ○
結果				プロポーザル ○○ 委託業者決定 ○			見直しの基本方針確定 ○	見直し路線の改善案の作成 ○				コミュニティバス事業 基本方針(案)の作成 ○

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 603	事業名	コミュニティバス運行経路等見直し事業②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
平成18年度に見直し路線の一部運行を開始するため、早急に見直しに対する基本方針を固め、これに基づいた調査により平成18年度予算に向けてつめを行う。	
主管課中間評価	
コスト面	3 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 路線変更に伴う経費(新バス停の新設等)の増
成果面	1 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) コミュニティバスのルート変更等により市民の利便性の向上が図られる。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	1 ある ない その他 (理由) バス事業者と協定を締結し、市が事業者に運行を委託している。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 基本方針策定にあたっては、費用対効果についても十分検討する必要がある。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
重点的に取り組む課題とする。 市民満足度の向上に向け見直しに取り組むこと。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	主管課	進捗状況評価	2 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 コミュニティバス総合調査が完了し、見直しに対する基本方針を定め、改善すべき点が明確になったが、実施計画の確定には至らなかった。	
		成果に対する評価	2 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 コミュニティバス総合調査が完了し、見直しに対する基本方針を定め、平成18年度以降の取り組みの方向性を示したが実施計画の確定には至らなかった。	
		効率性・経済性に対する評価	2 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 コミュニティバス総合調査において、交通不便地域の解消に向けた詳細な分析を行った。	
	審査会	総合評価及び次年度の実施方針		コミュニティバス総合調査が完了し、基本的な方針を定めたことにより、平成18年度以降の見直しの方向性が明確となった。
		進捗状況評価	2 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	2 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
		効率性・経済性に対する評価	2 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
	総合評価		コミュニティバス総合調査を踏まえ、見直しの基本方針を定め、調査の各視点から改善すべき地域やその方策が明確になった。今後は、総合調査報告の結果を踏まえ、コミュニティバス事業基本方針を策定し、平成18年度に予定している既存ルートの見直しと新規ルートの試験運行に向けて、さらに詳細な検討を進める必要がある。	

事業NO. 604	事業名	丸池の里整備事業①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-----------	----------	-------

評価対象事業名	丸池の里整備事業			部課名	都市整備部緑と公園課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第2・2-(1)-	係名	公園係	内線	2835		
計画事業名	ふれあいの里・市民の広場の整備			歳出科目	款	8土木費	項	4都市計画費	目	4緑化公園費
関連計画	三鷹市都市公園条例 緑と水の基本計画			一般会計	事項	8 丸池の里整備事業費				
補助区分	国	都	市単独							

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入  
丸池の里及び周辺地域に、市民が誇れるふるさと空間としての公園整備を行い、緑と水の公園都市の実現を図る。

**目的**

**概要** 回遊ルートの拠点として位置づけのある丸池公園の拡張を図り、用地買収及び施設整備を行う。整備にあたっては、ワークショップ方式による市民のニーズにあった公園づくりを推進する。

始期 13 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**  
補助金の有効活用を図り用地買収及びワークショップによる公園づくりを実施する。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
住宅1件及び公社買戻し用地1件の買収及びワークショップを実施した公園整備工事。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
住宅市街地総合整備事業に位置づけられた整備面積9856.5㎡の内、平成17年度末の累計用地取得面積9,856.5㎡(取得率100%)を指標とする。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	用地取得 545.76㎡	用地取得 637.50㎡ 公社分 1026.64㎡	用地取得72.73㎡ 公社買戻し389.14㎡ 公園整備面積3,262㎡	公社買戻し389.14㎡ 公園整備面積3,262㎡
まちづくり指標	①用地取得面積の累積 8,757.13㎡ ①行政指標 ②協働指標 (取得率 88.8%)	①用地取得面積の累積 9,394.63㎡ (取得率 95.3%)	①用地取得面積の累積 9856.5㎡(取得率100%) 公園整備面積3,262㎡	①用地取得面積の累積 9783.77㎡(取得率99.3%) 公園整備面積3,262㎡
予算額(千円)	125,733	176,615	241,533	241,533
決算額(千円)	104,484	137,752		180,934
執行率(%)	83.1%	78.0%		74.9%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	設計地開調 開始 調整 協議	用地権者との協議	用地鑑定	価格合意	価格審査会	国庫補助交付申請	国庫補助交付決定	土地売買契約 起工	支払い	工事着工			工事完了
結果	設計開始		用地鑑定		国庫補助交付申請	国庫補助交付決定	土地売買契約 起工	工事着工					工事完了

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 604	事業名	丸池の里整備事業②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-----------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		国庫補助を活用した公社買戻しは、交付決定も受け完了するが、1期工事分に残る1件の買収に難航している。							
主管課中間評価									
中 間 評 価	コスト面	1	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 整備が完了するため。						
	成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 全面オープンにより公園の利用価値が増加する。						
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	3	ある ない その他 (理由) 維持管理は原則民間委託であるが、月2回の定期的なボランティア活動がある。						
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)		<table border="1"> <tr> <td>妥当である</td> <td rowspan="3">意見</td> <td rowspan="3">今後は残る一件の買収に取り組むことが望まれる。</td> </tr> <tr> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>抜本的見直し必要</td> </tr> </table>			妥当である	意見	今後は残る一件の買収に取り組むことが望まれる。	改善の余地あり
妥当である	意見	今後は残る一件の買収に取り組むことが望まれる。							
改善の余地あり									
抜本的見直し必要									
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)									

### 《事業の事後評価》

主 管 課 事 後 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 前年度ワークショップによる実施設計を完了しているため、計画どおり進捗した。		
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 住民参加による整備のため、完成後の維持管理(水田管理)においても積極的な市民参加が予定され、協働のまちづくりを実践する。		
	効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 地権者の協力も得て、既存の樹木を最大限活用し、開園当初からお花見のできる公園となった。また、造成により発生した残土は、他の公園整備に活用し処分費の軽減を図った。		
	総合評価及び次年度の実施方針		ワークショップによる公園づくりの完成であり、協働のまちづくりのスタートである本事業は、総務大臣賞をはじめ数々の表彰を受け注目を浴びる事業となった。		
	審 査 会 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
		効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
		総合評価	事業最終年度であったが、未買収部分が残ってしまったことは残念だが、ほぼ計画通りに事業を進められた。更に、ワークショップ方式により実施したことで、協働型まちづくりの推進になうシンボリックな事業であった。		



事業NO. 605	事業名	地区計画制度等のまちづくりの推進①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------------	----------	-------

評価対象事業名	地区計画制度等のまちづくりの推進				部課名	都市整備部都市計画課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第3・4-(3)-	係名	地区計画支援担当	内線	2813			
計画事業名	地区計画制度等の活用				歳出科目	款	8土木費	項	4都市計画費	目	1都市計画総務費
関連計画	土地利用総合計画				一般会計	事項	4地区計画等まちづくり推進関係費				
					補助区分	国	都	市単独			

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 住民の身近な地区や政策誘導を図るべき大規模な土地等について、地区の特性に応じたまちづくりのルール(建築物の用途や容積率、壁面後退、道路・公園などの配置、緑化率など)を定める手法として、地区計画制度等を活用し、地域環境に配慮したまちづくりの推進・誘導を図る。

概要 まちづくり協議会が設立された地域をはじめ、住民発意によるまちづくり活動に対して、(株)まちづくり三鷹と市が連携し支援するとともに、地区計画制度等の活用を誘導し、良好な住環境の保全や商業の活性化など地域特性に応じた協働のまちづくりを推進する。  
また、大学跡地や住宅団地などの大規模な土地の利用転換を適正に誘導するため、都市再生機構等の事業者との協働により地区計画を定め、政策誘導のまちづくりの実現を図る。

始期 16年度から 終期 年度まで 当該事務に従事する実職員数 3.0人または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

- 1三鷹台まちづくり協議会・連雀通りまちづくり協議会・野崎西まちづくり協議会・大沢まちづくり研究会等の支援 6回/月
- 2法政大学付属中・高等学校周辺地区地区計画及び新川島屋敷地区地区計画の策定
- 3地区計画制度等のまちづくりに関する広報・啓発事業

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

各まちづくり協議会等の支援については、それぞれの地域の課題・解決策の検討、具体的な取組みや計画策定などを調整・誘導していく。また、法政大学付属中・高等学校周辺地区地区計画及び新川島屋敷地区地区計画の策定については、それぞれの地域特性を活かし、緑地及び良好な住環境の保全並びに地域ケア拠点整備の誘導を適切に図る。さらに、地区計画制度等のまちづくりを広報・啓発するため、パンフレットを作成する。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量		まちづくり協議会(4地区)等の支援 調布保谷線地区地区計画の策定・運用 まちづくり入門パンフレット作成	まちづくり協議会(4地区)等の支援 法政大学付属中・高等学校周辺地区地区計画及び新川島屋敷地区地区計画の策定・運用 地区計画制度等に関するパンフレット作成	まちづくり協議会(3地区)等の支援 法政大学付属中・高等学校周辺地区地区計画及び新川島屋敷地区地区計画の策定・運用 地区計画制度等に関するパンフレット作成
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標		①協議会支援、地区計画の策定・運用 ②協議会設立、課題整理・改善策の提言	①協議会支援、地区計画の策定・運用 ②地区の課題整理・改善策の提言	①協議会支援、地区計画の策定・運用 ②地区の課題整理・改善策の提言の検討
予算額(千円)		3,891	4,140	4,140
決算額(千円)		683		1,583
執行率(%)		17.6%		38.2%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	地区方針・ルールの検討		地区計画素案策定	地区計画原案策定	地区計画原案公告・縦覧 東京都同意協議	地区計画原案公告・縦覧 東京都同意協議	都市計画審議会諮問・答申	地区計画決定告示	建築制限条例施行	地区計画の運用		
結果	地区方針・ルールの検討		地区計画素案策定	地区計画原案策定	地区計画原案公告・縦覧 東京都同意協議	地区計画原案公告・縦覧 東京都同意協議	都市計画審議会諮問・答申	地区計画決定告示	建築制限条例施行	地区計画の運用		

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)  
委託業者選定に時間を要したため、パンフレット作成開始が遅れた。

事業NO. 605	事業名	地区計画制度等のまちづくりの推進②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
1各協議会等の支援については、地域の課題解決のため、それぞれの課題に適したまちづくり手法の提案・取組みが必要となる。 2大規模な土地の利用転換に伴う地区計画等の活用については、地域特性に沿って、適切なスケジュールで進める必要がある。 3地区計画制度等のまちづくりについては、パンフレットを活用し、積極的に広報・啓発を行う必要がある。	
主管課中間評価	
コスト面	2 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 引き続き、地区計画制度等のまちづくりを推進していくため
成果面	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 地区計画制度は、計画策定段階で必ず成果が生じるとは限らないため 今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について 1 ある ない その他 (理由) 大規模な土地の利用転換に伴う地区計画等の活用において、調査・分析、都市計画図書作成等の委託を行う必要がある。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 引き続きまちづくり三鷹と連携して事業を推進することが有効である。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
評価を踏まえ予算化に務める。 他部の事業とも連携・調整を図りながら、検討を進めること。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	主管課	進捗状況評価	1 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 各協議会等の支援については、年間を通じ適切に進めた。また、大規模な土地利用転換を行う地区に定めた地区計画は当初予定どおり進捗した。地区計画の啓発のためのパンフレット作成については、契約業者選定に若干時間を要したが概ね予定どおり進捗した。
		成果に対する評価	1 大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし 理由 各協議会等の支援については、地区の課題整理・改善策を協議会が整理しやすいよう誘導した。また、2地区の大規模な土地利用転換に伴う地区計画では、周辺環境への配慮と緑化を誘導する地域特性に沿った適切な制限内容を定め、それぞれの課題を解決するための取り組みができた。
		効率性・経済性に対する評価	2 高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 まちづくり協議会等の取り組みの支援や土地利用転換に伴う地区計画の策定は、各地域において懸案事項となっている課題について、できる限り経費をかけず、市が市民や事業者との協働で行ったことにより、市民ニーズ等に適切に対応する解決策を図っていくものであり、効果的な取り組みといえる。
	審査会	総合評価及び次年度の実施方針	
		まちづくり協議会等の支援や地域特性に沿った地区計画の策定は、各地域の課題解決のための有効な手段といえるが、市民との協働の取り組みや関係権利者との調整など、非常に時間を有する面がある。次年度以降も着々とその取り組みを進めると同時に、住民自ら発意した新たな地域の計画などが芽生えるよう広報・啓発活動に取り組む必要がある。	
		進捗状況評価	1 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		成果に対する評価	1 大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	総合評価	効率性・経済性に対する評価	2 高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
		平成17年度は、2地区において地区計画を定めることができた。今後も、主管課の認識どおり、住民自らの発意により、地区計画をはじめとする地域の計画づくりが行われるよう、支援するとともに普及・啓発に努めることが望ましい。	

事業NO. 606	事業名	バリアフリーの道路整備の推進(バリアフリー化改善事業)①《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------------------------	-------

評価対象事業名	バリアフリーの道路整備の推進(バリアフリー化改善事業)	部課名	都市整備部道路交通課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第1・4-(1)-	係名	設計係	内線	2845
計画事業名	バリアフリーの道路整備の推進	歳出科目	款	8.土木費	項	2.道路橋梁費	目	1.道路橋梁総務費
関連計画	三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想・交通バリアフリー法	一般会計	事項	5.バリアフリー化改善事業費				
		補助区分	国	都	市単独			

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 平成15年度に策定された「三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想」に基づき、バリアフリーの事業計画に沿った重点整備地区の特定経路を優先的に整備を行うとともに、道路の老朽化による整備路線についても、バリアフリーに配慮した改善を行い快適な歩行空間の整備を行う。

**概要** 重点整備地区であるJR三鷹駅周辺地区及び京王井の頭線の三鷹台駅・井の頭公園駅周辺地区の歩道の段差・勾配の改善、視覚障がい者誘導ブロックの是正、標識・道路照明・電柱等を移設し、バリアフリー化を図る道路整備を行う。

始期 16年度から 終期 22年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**

本年度の改善点としては、快適な歩行空間を整備するために、バリアフリーを考慮した構造や歩行者のニーズに合った質の高い歩行空間の形成を図り、事業計画を踏まえ計画的に整備を行う。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**

- ①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備【経路整備延長】250m(むらさき橋通りの整備)
- ②堀合地下道のバリアフリー化整備1箇所

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**

- ①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備率が【経路整備総延長7.5km】24%達成することを指標とする。
- ②堀合地下道のバリアフリー化整備1箇所を行うことを指標とする。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	JR三鷹駅周辺地区【経路整備】をバリアフリー化緊急改善の整備を実施	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備(むらさき橋通りの整備)【経路整備延長】309m②京王井の頭線踏切バリアフリー化改善【三鷹台二号踏切】1箇所	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備(むらさき橋通りの整備)【経路整備延長】250m②堀合地下道バリアフリー化整備1箇所	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備(むらさき橋通りの整備)【経路整備延長】80m②堀合地下道バリアフリー化整備1箇所
まちづくり指標	バリアフリー化整備を実施、高齢者・障がい者等の満足度を得られた。	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備率は経路整備総延長7.5kmに対して21%達成①京王井の頭線踏切のバリアフリー化整備1箇所	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備率は経路整備総延長7.5kmに対し24%達成①堀合地下道バリアフリー化整備1箇所	①JR三鷹駅周辺地区のバリアフリー化整備率は経路整備総延長7.5kmに対し27%達成①堀合地下道バリアフリー化整備1箇所
予算額(千円)	40,000	40,000	40,000	42,634
決算額(千円)	35,521	36,435		41,150
執行率(%)	88.8%	91.1%		96.5%

**年間の実施スケジュール**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画								契約	着手	①【バリアフリー化その1】		竣工
								契約	着手	②【バリアフリー化その2】		竣工
結果								①【バリアフリー化その1】	着手			竣工
								契約	着手	②【バリアフリー化その2】		竣工

**当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)**

全体工程については概ね予定通りであるが、その1工事において工事延長等の見直しを行ったため工事着手時期に変更が生じた。

事業NO. 606	事業名	バリアフリーの道路整備の推進(バリアフリー化改善事業)②《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------------------------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		JR三鷹駅前では三鷹駅前広場工事、すずかけ駐輪場整備工事、その他民間の工事が集中的に行われたため、駅周辺道路の整備着手を見送っていたことから、整備の遅れが危惧されていたところであるが、これらの工事が完成するのをうけて整備を推進し、整備率アップを目指す。また、京王井の頭線三鷹台・井の頭公園駅周辺地区についても事業化を図れるよう調整を行っていく。	
中間 評価	<b>主管課中間評価</b>		
	コスト面	2	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 重点地区の整備が終了するまで同程度の費用が必要である。
	成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) バリアフリー整備率の上昇とともに事業効果も拡大する。
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	1	ある ない その他 (理由) まちづくり交付金対象事業候補として、都市再生整備計画検討業務の委託先であるUR都市機構と今後調整を図っていく。
	<b>改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		
		妥当である	意見
	改善の余地あり		
	抜本的見直し必要		
<b>改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>			
重点的に取り組む課題とする。 バリアフリー化については、事業効果のある整備箇所を選定すること。			

### 《事業の事後評価》

事後 評価	<b>進捗状況評価</b>			2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	理由	堀合地下道はJR中央線に近接しているため、工事実施にあたりJRとの協議に多くの時間を要した。工事は、線路内から行う作業も多く、安全確保を最優先に進めたことから、当初計画以上の工事期間が必要となり、完成が3月末となった。			
	<b>成果に対する評価</b>			2	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	理由	堀合地下道の改善工事は、工期内に防犯カメラの設置も完了し、計画通りの成果が得られた。しかし、むらさき橋通りの工事は、他工事との兼ね合いから、工事区間の見直しを行ったため、計画した施工延長が達成できなかった。			
	<b>効率性・経済性に対する評価</b>			1	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
	理由	当初、道路事業としての補助採択が得られなかったが、補助金の交付について東京都と継続して協議を行った結果、東京都福祉改革推進事業補助金の交付を得ることができた。			
審査 会 評価	<b>総合評価及び次年度の実施方針</b>				
	堀合地下道の改善工事は、計画通りの成果が得られた。むらさき橋通りのバリアフリー化工事については、今年度一部未達成区間が生じたが、次年度に重点的に施工することにより、平成18年度内に路線全体の整備完了を目指す。				
	<b>進捗状況評価</b>			2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
<b>成果に対する評価</b>			2	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし	
<b>効率性・経済性に対する評価</b>			1	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
事業実施に遅れは生じたものの、補助金の獲得もあり経済性に高い事業となった。今後は事業計画に基づいた着実な事業の進め方が望まれる。					

事業NO. 607	事業名	三鷹駅南口西側地区協同ビル建設事業の支援① 《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------------------	-------

評価対象事業名	三鷹駅南口西側地区協同ビル建設事業の支援			部課名	まちづくり建築課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第2部第6・2-(7)-	係名	再開発	内線	2861		
計画事業名	三鷹駅南口西側地区協同ビル建設事業の支援			歳出科目	款	1再開発費	項	1再開発費	目	2再開発事業費
関連計画	三鷹駅前地区再開発基本計画			再開発会計	事項	三鷹駅南口地区市街地再開発助成事業				
				補助区分	国	都	市	単独		

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 西側地区に協同ビルを建設することにより土地を高度利用し、住宅、商業・業務施設によるまちの活性化及び防災性の向上などが図られ市民生活の向上が期待できるため、三鷹駅前にふさわしい協同ビルとなるように誘導・支援する。また、バリアフリーのまちづくり推進の観点から、現在の駅前広場に設置してあるデッキを協同ビルに延長し、エスカレーター等の設置を検討する。これらの整備により、市の表玄関にふさわしい安全で快適な都市空間の創出と防災空間の確保等を図る。

概要 平成19年度の協同ビル完成を目指し、関係地権者(市を含む。)により構成される「三鷹駅南口西側地区優良建築物建設組合」が除却工事、建設工事を行なう。

始期 12 年度から 終期 19 年度まで 当該事務に従事する実職員数 0.5 人 または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

本事業計画地内に市の駐輪場施設があり、平成15年2月に三鷹駅南口西側地区優良建築物建設準備組合より、市に協同ビル化参画要請が出されたため、同組合に参画するとともに、この協同ビルの支援を行う。16年度に等価交換契約の締結と建設工事着手する予定だったが、権利関係の調整が遅れており除却工事に着手したのみにとどまっている。今年度も、事業が進捗するよう誘導・支援する。

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

①既存建築物の除却工事費、建築工事等に対する補助、②等価交換(権利変換)契約の締結

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

権利変換手続きの進捗、更地化などを終え、協同ビルの建設工事を推進する。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	テペロッパー選定。基本協定の締結。基本設計	①除却工事・物件補償等に対する補助	①等価交換契約締結 ②建設工事着工	①平成17年9月16日締結 ②平成17年9月着工
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	②市参画と支援の実施	②実施設計完了 ②除却工事着手	①権利変換手続き終了 ②建設工事の進捗を図るための支援	①等価交換契約締結済み ②工事着手の遅れにより一部繰越
予算額(千円)	46,800	88,400	88,200	88,200
決算額(千円)	13,000	6,800		22,800
執行率(%)	27.8%	7.7%		25.9%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画		除却工事(建設組合が実施)		●等価交換契約 建設工事(建設組合が実施)								
結果		除却工事(建設組合が実施)				●等価交換契約 建設工事(建設組合が実施)						

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 607	事業名	三鷹駅南口西側地区協同ビル建設事業の支援②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-----------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
建設組合が行っている借家人の立ち退き交渉が難航し、工程が遅れているが、平成19年完成に向けて建設工事に取り組む。また、市施工の西側地区デッキ延伸工事との調整を行う。	
主管課中間評価	
コスト面	3 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 平成17年9月に建築工事に着手しているため、18年度は出来高があがる。
成果面	1 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 建築工事着手しているため出来高があがる。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由) 本事業は建設組合が行っている協同ビル化に対する補助事業であるため委託の余地はない。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 適正に進捗するよう働きかけることが望まれる。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	

### 《事業の事後評価》

主管課	進捗状況評価	2 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 借家人の立ち退きが遅れたため工事の進捗が遅れが生じているが、現在は着工し順調に工事が行われている。
	成果に対する評価	2 大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし 理由 指標に掲げた等価交換契約については締結したが、工事の遅れから建設支援に関して予算の執行残が発生している。
	効率性・経済性に対する評価	2 高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 工事着手は遅れたが、着工後は順調に進捗している。補助金事務については的確に行っている。
事後評価	総合評価及び次年度の実施方針	工事が遅れたが、今後も事業の進捗にあわせて的確に支援していくとともに、早期完成を促したい。
	審査会	
評価	進捗状況評価	2 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	成果に対する評価	2 大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	効率性・経済性に対する評価	2 高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
	総合評価	建設組合が行っている借家人の立ち退き交渉が難航したため建設工事に遅れが生じたが、現在は、課題を解決し順調に工事が進捗している。今後も、三鷹駅南口駅前広場との調和を図りながら、中心市街地の活性化に向けた整備が行われるよう、引き続き支援を行うことが必要である。

事業NO. 608	事業名	三鷹台駅周辺地区整備基本計画の策定①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------	----------	-------

評価対象事業名	三鷹台駅周辺地区整備基本計画の策定			部課名	都市整備部都市計画課			
基本計画掲載	あり	○	なし	係名	地区計画支援担当	内線	2813	
計画事業名	まちづくり推進地区による重点的な面整備の推進			歳出科目	款 8土木費	項 4都市計画費	目 1都市計画総務費	
関連計画	土地利用総合計画、バリアフリーのまちづくり基本構想			一般会計	事項 4地区計画等まちづくり推進関係費			
事業の目的・概要	<p><b>事業の目的</b> 目的は対象(何を、誰を対象にと意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入</p> <p>三鷹市の東部地区の玄関口にふさわしい都市空間を創出するため、安全で快適な歩行空間の確保や商業の活性化に配慮した三鷹台駅周辺地区整備基本計画を策定する。</p> <p><b>概要</b> 三鷹台周辺地域住民自らのまちづくりプランの策定に向け、三鷹台まちづくり協議会に対する活動支援を(株)まちづくり三鷹と協働で、専門家等の派遣等を通じて行っていく。市は、住民から提出される「まちづくり構想」をもとに、まちづくり推進地区の指定及び三鷹台駅前周辺地区整備基本計画の策定を行う。</p>							

始期	8	年度から	終期	19	年度まで	当該事務に従事する実職員数	人	または	250.0	時間
16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点										
(株)まちづくり三鷹とさらなる協力、連携を図りながら、地元のまちづくり団体への支援を行っていく。										

<b>今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明</b>										
1	三鷹台まちづくり協議会全体会	計10回	4	東京都等関係機関との協議	計	3回				
2	事務局会議等への出席	計10回	5	その他地権者等との協議	計	10回				
3	まちづくり三鷹との打ち合わせ	計10回								

<b>今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明</b>										
市道135号線の歩道の設置については、協議会、商店会及び地権者に具体的な計画を示しながら、検討していく。又、全体会でテーマ毎に検討を行う道路交通問題、環境問題及び防災問題等については、年度末に取りまとめを行っていく。										

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	準備会開催7回、市民の集い開催2回、設立総会1回、協議会1回	全体会10回、事務局会議10回、商店会との意見交換会1回	全体会10回、事務局会議10回、歩道設置に関する分科会5回、東京都等関係機関との協議3回	全体会10回、事務局会10回、商業分科会2回
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	②協議会設立	②135号線歩道設置に係る緊急提言書の提出	②まちづくり構想作成に向けた支援 ②歩道設置に係る協議・検討	②まちづくり構想作成に向けた支援 ②第1次まちづくりプラン提出 ②歩道設置に係るアンケート報告書提出
予算額(千円)	500	1,015	1,015	1,015
決算額(千円)	3	10		10
執行率(%)	0.6%	1.0%		1.0%

年間の実施スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	協議会の運営(まちづくり構想素案の検討)											
	135号線歩道設置に係る検討											
結果	協議会の運営(まちづくり構想素案の検討)											
	第1次三鷹台まちづくりプラン提出 135号線歩道設置に係る検討 歩道設置に係るアンケート報告書提出											

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 608	事業名	三鷹台駅周辺地区整備基本計画の策定②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
市道第135号線の歩道設置については、地域において様々な検討が行われているが、市の整備に関する基本方針を明らかにし、歩道設置に向けたコンセンサスを図っていく必要がある。	
主管課中間評価	
中 間 評 価	コスト面 <b>2</b> 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 引き続き、地域のまちづくり活動については、まちづくり三鷹とともに支援を行っていく。
	成果面 <b>1</b> 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 歩道設置やまちづくりプランの作成に向けて、地域住民の議論が活発になってくることが予想されるため。
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について <b>1</b> ある ない その他 (理由) 住民によるまちづくりプランの策定については、まちづくり三鷹の支援制度を活用し、まちづくり専門家に作成を依頼する。
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)
意 見	今後も適切な支援をしていくことが望まれる。
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	

### 《事業の事後評価》

主 管 課 事 後 評 価	進捗状況評価 <b>2</b> 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 歩道設置に関しては一定の進捗がみられたが、住民によるまちづくりプランの策定については、作業が多少遅れている。	
	成果に対する評価 <b>2</b> 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 歩道設置に関しては、市が歩道設置に関する緊急整備方針を決定し、一定の進捗がみられたが、今後都市計画道路の見直しやまちづくりの中で、三鷹台駅前通りの西側についての検討が必要である。	
	効率性・経済性に対する評価 <b>2</b> 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 引き続き、地域のまちづくり活動については、まちづくり三鷹とともに支援制度を活用し、適切な支援を行っていく必要がある。	
	総合評価及び次年度の実施方針 三鷹台まちづくり協議会では、18年上半期を目標に、第2次三鷹台まちづくりプランの策定を行っている。市としては、その提出を待って、三鷹台駅前地区整備基本計画の策定に向けた調査・検討を行っていく。	
	進捗状況評価 <b>2</b> 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
	成果に対する評価 <b>2</b> 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
	効率性・経済性に対する評価 <b>2</b> 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 今後は具体的な提言となってくると予想されるが、住民の要望とコストの関係を見極めながらの計画の策定が望まれる。	
	総 合 評 価	
	審 査 会 評 価	
	意 見	



事業NO. 609	事業名	都市計画道路3・4・13号線整備事業(牟礼2期)の推進①《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	--------------------------------------	-------

評価対象事業名	都市計画道路3・4・13号線整備事業(牟礼2期)の推進			部課名	都市整備部 都市計画課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第1・2-(2)-	係名	都市計画係	内線	2814		
計画事業名	3・4・13号線(牟礼地区)整備の促進			歳出科目	款	8. 土木費	項	4. 都市計画費	目	2. 街路事業費
関連計画	都市計画法			一般会計	事項	2. 三鷹都市計画道路3・4・13号線(牟礼)整備事業費				
				補助区分	国	都	市	単独		

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象にと意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

牟礼地区において、人見街道～連雀通り間の南北交通路を整備することにより、生活道路への通過交通流入の抑制、地区の防災性の向上、周辺道路の渋滞緩和、公共交通の利便性の向上を図る。

人見街道～連雀通り間の466mについて、片側1車線幅員16mの都市計画道路を整備する。なお、東八道路～人見街道までの区間(牟礼I期)については、平成12年度に整備が完了している。

始期 14 年度から 終期 24 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**

国庫補助金の全般的な削減傾向の中で、補助金の獲得が大きな課題となっている。  
土地開発公社が行う先行買取と合わせて、市が直接買取することにより、物件補償についても補助対象とすることができるので、この手法を基本に事業の進捗を図る。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**

今年度は、295㎡の買取を予定している。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**

三鷹市の都市計画道路整備率38.6%(平成17年3月31日現在)  
用地取得率13.4%(平成17年3月31日現在) 全体買取面積7223.22㎡ 今年度買取予定面積295㎡。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)**

他市の都市計画道路整備率(平成17年3月31日現在)  
武蔵野市57.2% 府中市78.2% 調布市42.4% 小金井市34.6%

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	用地買取 272㎡公社買戻し	用地買取 349㎡	用地買取 295㎡	用地買取 188㎡ (187.84㎡)
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	①用地取得率 8.6%	①用地取得率 13.4%	①用地取得率 17.5%	①用地取得率 16.0%
予算額(千円)	83,730	267,011	279,042	156,138
決算額(千円)	79,733	264,239		155,400
執行率(%)	95.2%	99.0%		99.5%

**年間の実施スケジュール**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画						用地買取						
結果						用地買取 187.84㎡						

**当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)**

本事業は、補助金見合いの執行を原則としている。今年度は、補助要望額に比べ内示額が減額されたことから、当初予定面積を買収できていない。

事業NO. 609	事業名	都市計画道路3・4・13号線整備事業(牟礼2期)の推進②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	------------------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		平成16年度より用地買収費と合わせ物件補償費についても、補助対象として事業を執行しているため、補助金を有効に活用することができた。一方、用地買収については補助金をベースに執行しているため、補助金の獲得が課題となっている。		
主管課中間評価				
中 間 評 価	コスト面	2	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 補助金に見合う執行を原則に、用地買収を行う。	
	成果面	2	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 前年度と同程度の用地買収を予定しているため、事業成果は同程度である。	
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2	ある ない その他 (理由) 個人の財産処分に関する事なので、委託はふさわしくない。	
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)			
評 価	妥当である	意見	引き続き所管部の方針である直買いを基本として、補助見合いの事業執行を行う必要がある。	
	改善の余地あり			
	抜本的見直し必要			
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)				
重点的に取り組む課題とする。				

### 《事業の事後評価》

主 管 課 事 後 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている		
	理由		補助要望額の減額という状況にあったが、獲得した補助金に見合う執行により、用地買収を行えた。		
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし		
	理由		用地費と合わせて物件(家屋)補償費を補助対象とすることにより、市費の削減に努めた。		
	効率性・経済性に対する評価	2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること		
	理由		買収に応じる意向の地権者が多い。道路の開通により初めて事業効果が表れることから、早期の買収が望まれる。		
	総合評価及び次年度の実施方針				
	市が直接買収することで、物件補償についても補助対象とすることが出来るため、この手法を基本に、土地開発公社が行う先行買収と合わせて、事業の進捗を図る。				
	評 価 会 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし	
効率性・経済性に対する評価		2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること		
総合評価			今後も補助見合いでの着実な事業実施が望まれる。		

事業NO. 610	事業名	「合流式下水道改善事業」の推進①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	------------------	----------	-------

評価対象事業名	「合流式下水道改善事業」の推進			部課名	都市整備部下水道課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第4部第3・2-(1)	係名	管渠維持係	内線	2875		
計画事業名	合流式下水道改善事業			歳出科目	款	1. 下水道事業費	項	3. 建設費	目	1. 管渠布設工事費
関連計画				下水道会計	事項	4. 合流式下水道改善事業費				
				補助区分	国	都	市単独			

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 平成16年度に策定した「合流式下水道改善計画」に基づき、事業を実施することによって雨天時、公共用水域の汚濁の原因となっている未処理放流水及びきょう雑物を削減し、公共用水域の水環境の改善を図る。

概要 ①汚濁負荷量の削減(分流式下水道並み)、②公衆衛生上の安全確保(放流回数の半減)、③きょう雑物の削減を目標とした整備を行う。併せて平成18年度事業に向けての実施設計を行う。

始期 17年度から 終期 27年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0人 または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点  
コスト軽減を意識しながら「合流式下水道改善計画」に基づき事業を実施していく。

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

- ①雨水吐き室スクリーン設置 3基
- ②道路雨水貯留浸透施設(貯留量611m<sup>3</sup>)を設置する道路面積1.34ha

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

BOD<sup>※</sup>汚濁負荷量の削減目標(平成27年度までに53,223kg削減)に対する達成率を指標とする。目標が達成されると分流式下水道並みとなる。  
※微生物が有機物を分解するのに必要な酸素量で水質汚濁の指標。BODが高くなると生物に影響を与え悪臭を発生させる。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

近隣市においても合流改善事業として雨水吐き室スクリーンを設置する。

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	改善計画の策定流出シュミレーションによる解析	改善計画の策定	雨水吐き室スクリーン3箇所及び道路雨水貯留浸透施設(貯留量611m <sup>3</sup> )の設置(対象面積1.34ha)	雨水吐き室スクリーン3箇所及び道路雨水貯留浸透施設(貯留量611m <sup>3</sup> )の設置(対象面積1.34ha)
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	①改善計画(案)の策定	①改善計画を決定する。 ①17年度事業実施にむけての実設計委託を行う。	①BOD汚濁負荷量の削減目標に対する達成率10%	①BOD汚濁負荷量の削減目標に対する達成率10%
予算額(千円)	23,100	19,950	399,840	396,732
決算額(千円)	17,850	14,910		322,410
執行率(%)	77.3%	74.7%		81.3%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画				←								→
結果				←								→

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 610	事業名	「合流式下水道改善事業」の推進②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		
<p>きょう雑物の削減については、新しい除去技術が開発され今年度中に性能評価が出される見込みである。この技術は、従来のものより安価であるので採用できれば次年度以降事業費の縮減につながる。</p> <p>また、集中豪雨による「都市型水害」に対応するため浸水地域のシミュレーションを実施するとともに緊急を要する箇所について雨水管等の整備を行う。</p>		
主管課中間評価		
中 間 評 価	コスト面	3 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 雨水管等の整備と、雨水吐き室スクリーンが無動力式から動力式になるため工事費が増加する。
	成果面	1 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 雨水管等の整備により、水害発生の危険が減少する。
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	1 ある ない その他 (理由) 実施設計業務について委託が必要である。
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
	妥当である	意見 計画に基づいた適正な事業進行が望まれる。都市型水害対策については、別途中長期の見通しのもと計画的な事業の推進を図ることが望まれる。
	改善の余地あり	
	抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)		
<p>重点的に取り組む課題とする。</p> <p>合流式下水道改善事業や都市型水害対策については計画的な取り組みを行うこと。</p>		

### 《事業の事後評価》

主 管 課 事 後 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 雨水吐き室スクリーン設置工事、道路雨水貯留浸透施設設置工事とも当初計画どおり順調に進捗した。
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 予定していた事業(事業量)を施工できたので目標の指標を達成することができた。
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 事業は当初計画どおり進捗したが、コスト削減をあまり図ることができなかった。
	総合評価及び次年度の実施方針		
	事業は当初計画どおり進捗したが今後、効率性・経済性を意識したさらなる取り組みが必要といえる。		
	審 査 会 評 価	進捗状況評価	1
成果に対する評価		1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
効率性・経済性に対する評価		2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
総合評価			計画に基づき重点的な事業の推進を図るとともに、都市型水害対策としての取り組みも合わせて行っていくことが望まれる。

事業NO. 611	事業名	大沢の里整備事業①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-----------	----------	-------

評価対象事業名	大沢の里整備事業			部課名	都市整備部緑と公園課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第2・2-(1)-	係名	緑と水係	内線	2833		
計画事業名	ふれあいの里・市民の広場の整備			歳出科目	款	8.土木費	項	4.都市計画費	目	4.緑化公園費
関連計画	緑と水の基本計画			一般会計	事項	7.大沢の里整備事業費				
				補助区分	国	都	市単独			

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 野川や崖線の緑、水田、ワサビ田などのふるさと資源を生かしながら、その保全、修景整備を図る拠点づくりを行なうことにより、市民に対して良好な生活環境の提供を図る。

概要 大沢の里に残された自然環境を保全しながら、市民がふるさと空間として親しめる環境づくりを進め、緑と水の3拠点の一つとして整備する。具体的には、崖線の緑や野川などの自然環境の保全・活用、水田や水車、古民家などの伝統的農村風景の保全と再現、市民と農業との交流の場づくり、ホテルを始めとした動植物の生息環境づくり等を行なう。

始期 年度から 終期 年度まで 当該事務に従事する実職員数 0.5人 または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

国分寺崖線の保全を図るため、崖線下の用地を大沢緑地として取得するとともに、大沢の里公園の野川右岸部約3,300㎡(古民家水車用地ほか)の整備に向けた実施設計を行います。また、湿生花園等の水路の水量を確保し、ホテルの生息環境の向上を図るため、湿生花園内に水循環施設を整備する。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

- ・都市計画決定している又は予定している区域における用地取得面積の累計(用地の確保状況を確認する指標)
- ・都市公園、緑地としての開園面積(供用開始による市民開放の状況を確認する指標)

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	1 大沢の里公園 ・用地買収 475.76㎡	1 大沢の里公園 ・基本設計	1 大沢の里公園 ・実施設計 ・水循環施設整備 2 大沢緑地 ・用地買収 477.83㎡	1 大沢の里公園 ・実施設計 ・水循環施設整備 2 大沢緑地 ・用地買収 422.70㎡
まちづくり指標	1 大沢の里公園 ・用地取得面積の累計 4,432.68㎡ ①行政指標 ②協働指標 ・都市公園としての開園面積 0㎡	1 大沢の里公園 ・用地取得面積の累計 4,432.68㎡ ・都市公園としての開園面積 0㎡	①大沢の里公園の整備 ・用地取得面積の累計 4,432.68㎡ ・都市公園としての開園面積 0㎡ ①大沢緑地の整備 ・用地取得面積の累計 1,763.16㎡ ・都市緑地としての開園面積 1,285.33㎡	①大沢の里公園の整備 ・用地取得面積の累計 4,432.68㎡ ・都市公園としての開園面積 0㎡ ①大沢緑地の整備 ・用地取得面積の累計 1,708.03㎡ ・都市緑地としての開園面積 1,285.33㎡
予算額(千円)	75,541	750	147,193	147,193
決算額(千円)	74,861	683		132,146
執行率(%)	99.1%	91.1%		89.8%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画							用地売買契約					
結果												

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 611	事業名	大沢の里整備事業②	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	-----------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
大沢緑地の用地買収(公社買戻し)については、減額内示であったことから、一体的な補助事業である北野公園と調整を図りながら、内示額に見合った事業執行を図る。大沢の里公園の野川右岸の整備については、文化財である水車の復活(稼動)について、生涯学習課と動態保存の在り方及び整備の役割分担を調整しながら進めていく。	
主管課中間評価	
コスト面	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事業内容が、平成17年度の設計から平成18年度は整備及び用地買収に変わることから経費が増加する。
成果面	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 野川右岸部分については、整備の実施により市民に開放される。また、水車の復活により文化の伝承が行われる。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由) 市が都市計画事業者として事業認可を取得している。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 主管課の指摘どおり、補助見合いの事業執行が必要である。また、生涯学習課との連携とともに、市民の意見を取り入れることも必要である。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
重点的に取り組む課題とする。 ルート整備については、文化財や健康づくりやベンチのあるみちづくり整備計画等統一したサイン等の整備を行うこと。大沢の里の水車周辺については教育委員会と早急に調整を行うこと。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	主管課	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		理由		大沢緑地の用地買収については、補助見合いの事業執行を図るため他の補助事業と事業調整を行ったことから、買収時期が3月となった。また、大沢の里公園の実施設計については、水車の保存の在り方の検討に時間を要したことから、実施時期に遅れが生じた。
		成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
	理由		用地買収にあたり補助金を最大限に活用するため、補助見合いの事業執行を図ったことから、当初予定していた買収規模を下回った。	
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
	理由		用地買収については補助見合いの事業執行を図り、補助金の最大限の活用に努めた。	
	総合評価及び次年度の実施方針			
	用地買収については、補助金の関係から事業量を縮小したが、その他の事業については、概ね当初予定通りに事業執行が図られた。今後は、平成17年度に行った実施設計に基づく整備を行うとともに、大沢の里公園及び大沢緑地の整備に向けての用地買収を進める。			
	審査会	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
効率性・経済性に対する評価		2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
総合評価			今後も補助見合いでの整備計画に基づいた事業実施が望まれる。	

事業NO. 612	事業名	都市再生機構との連携強化①	《重点管理事業》	都市整備部
-----------	-----	---------------	----------	-------

評価対象事業名	都市再生機構との連携強化			部課名	まちづくり建築課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第2部第6・4-(2)-	係名	再開発	内線	2861		
計画事業名	都市再生機構との連携強化			歳出科目	款	1再開発費	項	1再開発費	目	2再開発事業費
関連計画	三鷹駅前地区再開発基本計画			再開発会計	事項	三鷹駅前地区再開発事業運営費				
				補助区分	国	都	市単独			

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 補助制度の見直しが進み、交付金制度が拡大されていくなかで、文化劇場跡地を所有し、交付金制度活用の実績がある都市再生機構との連携を強化し、三鷹駅周辺地区にまちづくり交付金の導入を検討するとともに、三鷹センター・文化劇場跡地周辺地区の開発を推進する。

**概要** UR都市再生機構と連携して、三鷹駅周辺地区にまちづくり交付金の導入を検討し、三鷹駅前周辺地区の都市再生整備計画(案)を作成する。

始期 17 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 0.5 人 または 時間  
**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
 まちづくり交付金の導入を前提に三鷹駅前地区において都市再生整備計画(案)を作成する。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
 都市再生整備計画(案)作成。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量			都市再生整備計画(案)作成	都市再生整備計画(案)作成
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標			①都市再生整備計画(案)作成	①都市再生整備計画(案)作成
予算額(千円)			3,000	3,000
決算額(千円)				2,992
執行率(%)				99.7%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画				都市再生整備計画委託									
結果				都市再生整備計画委託									

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 612	事業名	都市再生機構との連携強化②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	---------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		三鷹センター周辺・文化劇場跡地再開発事業の目処が立たないことから、事業の開始時期が特定できない。							
主管課中間評価									
中 間 評 価	コスト面	1	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 17年度に委託業務を行うが、18年度に予算計上する事業はない。						
	成果面		18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) まちづくり交付金導入時期が未定なため、成果の比較ができない。						
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2	ある ない その他 (理由) 具体的な事業が固まっていないので不明。						
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)		<table border="1"> <tr> <td>妥当である</td> <td rowspan="3">意見</td> <td rowspan="3">今後もまちづくり交付金の活用を含め、事業化していく可能性を検討していくことが望まれる。</td> </tr> <tr> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>抜本的見直し必要</td> </tr> </table>			妥当である	意見	今後もまちづくり交付金の活用を含め、事業化していく可能性を検討していくことが望まれる。	改善の余地あり
妥当である	意見	今後もまちづくり交付金の活用を含め、事業化していく可能性を検討していくことが望まれる。							
改善の余地あり									
抜本的見直し必要									
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)		基本的には提案どおり実施する。							

### 〈事業の事後評価〉

主 管 課 事 後 評 価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている		
	理由	当初計画のとおり完了。			
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし		
	理由	UR都市再生機構と連携して三鷹駅前周辺地区の都市再生整備計画(案)を作成した。今後事業の進展を見守って的確に計画の着手時期を検討する必要がある。			
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること		
	理由	今回の検討結果はあくまでも現段階でメニューを抽出したものであり、交付金を実際に導入する場合は最も経済的な組み合わせにする必要がある。			
	総合評価及び次年度の実施方針	文化劇場跡地周辺地区の動向を見極めながらまちづくり交付金導入の可能性を含め検討する必要がある。			
	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている		
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし		
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること		
審査会 総合 評価	当初計画通りの進行をすることができたが、今後の動向には注意を払う必要がある。				



事業NO. 613	事業名	「あんしん歩行エリア」整備事業の実施①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

評価対象事業名	「あんしん歩行エリア」整備事業の実施			部課名	都市整備部道路交通課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第1・5-(4)-	係名	設計係	内線	2845		
計画事業名	「あんしん歩行エリア」の指定を活用した整備の推進			歳出科目	款	8. 土木費	項	2. 道路橋梁費	目	1. 道路橋梁総務費
関連計画	三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想			一般会計	事項	6. あんしん歩行エリア整備事業費				
				補助区分	国	都	市単独			

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 交通死傷事故の多い下連雀一丁目(一部)から四丁目、上連雀二丁目から五丁目の地区が「あんしん歩行エリア」に指定されたことを受け、安心して暮らせるまちづくりをめざしエリア内の道路に総合的な交通安全対策を実施する。事業実施にあたっては、交通管理者と連携して面的かつ総合的な死傷事故抑止対策を講じることにより、エリア内での全体の死傷事故件数2割抑止、歩行者・自転車の死傷事故件数3割抑止し、道路環境の向上を図る。

概要 重点整備地区である下連雀地区の歩車共存道路整備、通学路の整備等に重点をおいて行う。具体的な整備内容としては、速度抑制策として路側帯のカラー化、交差点内のキララ舗装、路面標示の強調(イメージハンプ)、などを行い、エリア内の道路を車中心から歩行者および自転車利用者を優先する道路へ転換する。

始期 17 年度から 終期 19 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0 人 または 時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明

- ①市道第4号線(平和通り)の歩車共存道路整備【整備延長】約380m
- ②市道第123号線ほかの歩車共存道路整備【整備延長】約200m
- ③市道第277号線の歩車共存道路整備【整備延長】約120m

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

あんしん歩行エリアの整備率は総延長3,350mに対し21%(整備延長700m)達成することを指標とする。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量		下連雀一丁目～四丁目および上連雀二丁目～五丁目が国よりあんしん歩行エリアに指定されたことを受け、事業計画の策定を行う。	①市道第4号線【整備延長380m】②市道第123号線ほか【整備延長200m】③市道第277号線【整備延長120m】	①市道第4号線【整備延長380m】②市道第123号線ほか【整備延長200m】③市道第277号線【整備延長120m】
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標		あんしん歩行エリア整備計画策定にあたり、市民の協力を得て作成された「三鷹市地域安全マップ」を活用し、整備路線選定に市民意見を反映させた。	あんしん歩行エリア整備率は整備総延長3,350mに対し21%達成。	あんしん歩行エリア整備率は整備総延長3,350mに対し21%達成。
予算額(千円)			56,059	53,425
決算額(千円)				50,400
執行率(%)				94.3%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画				契約 着手	①【あんしん歩行エリア整備工事その1】				竣工			
				契約 着手	②③【あんしん歩行エリア整備工事その2】				竣工			
結果				契約	①【あんしん歩行エリア整備工事その1】				竣工			
				契約	②③【あんしん歩行エリア整備工事その2】				竣工			

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載) 補助金の交付決定通知が予定よりも遅れたため起工日に変更があった。

事業NO. 613	事業名	「あんしん歩行エリア」整備事業の実施②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
今年度の整備に引き続き、次年度以降主要生活道路を含めた面的な整備を行い、事業完了後において、エリア内全体での事業効果を検証する。	
主管課中間評価	
コスト面	3 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事業の整備延長が増加するため。
成果面	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事業効果の指標は整備が完了する平成19年度以降となるため。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由)
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 基本計画ベースより事業費が増となっており、全体の事業調整を図りながら、より一層の国庫補助の確保が望ましい。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	

### 〈事業の事後評価〉

事後評価	主管課	進捗状況評価	1 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 「あんしん歩行エリア」整備路線全て計画通り実施完了した。
		成果に対する評価	1 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 あんしん歩行エリア整備事業は、予定の整備延長が完成し、計画どおりの整備率を達成できた。
		効率性・経済性に対する評価	2 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 エリア内全体の事業が完成したうえで、効率性の検証できる。
	審査会	総合評価及び次年度の実施方針	
		今年度の整備に引き続き、次年度以降主要生活道路を含めた面的な整備を行い、事業完了後において、エリア内全体での事業効果を検証する。	
		進捗状況評価	1 当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		成果に対する評価	1 大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
	総合評価	効率性・経済性に対する評価	2 高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
		当初計画どおりの事業実施ができたが、今後も補助金の確保等コストの削減が望まれる。	

事業NO. 614	事業名	「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」の策定①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	--------------------------	----------	-------

評価対象 事業名	「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」の策定			都市整備部道路交通課									
				係名	設計係	内線	2845						
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第1・4-(1)-	歳出科目	款	8. 土木費	項	2. 道路橋梁費	目	1. 道路橋梁総務費		
計画事業名	ベンチのある道づくりの推進			一般会計	事項	5. バリアフリーの道づくり推進事業費							
関連計画	三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想・交通バリアフリー法			補助区分	国	都	市単独						
事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入													
目的	「三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想」に基づき、移動円滑化に向けたバリアフリー整備を行っているが、障がい者や高齢者の方々が安心して外出し、健康の維持増進やコミュニケーションを図るため、市内道路の移動経路において一定区間に適切かつ連続した休憩施設(ベンチ等)を新たに設置することにより、さらなるバリアフリー化の充実を図る。												
概要	平成17年度は、ベンチ設置に向け具体的な整備路線と整備イメージ等を検討し、道路整備やまちづくりと一体的かつ実行性の高い整備計画を策定する。また、ベンチの設置促進に向け、民間誘導策(補助、寄付等)や地域住民のコンセンサス確保の手法について検討し、整備手法を決定する。												
始期	17	年度から	終期	17	年度まで	当該事務に従事する実職員数	1.0人		または	時間			
16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点													
今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明													
「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」を策定する。 事業計画をとりまとめる。													
今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明													
設置方針および整備手法、整備路線の抽出と概略配置、デザイン等の検討成果について、パブリックコメント実施結果を反映させ、「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」を策定するとともに、事業実施に向けたスケジュール等を踏まえた事業計画をとりまとめる。													
他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)													
東京都では、都立公園内に個人負担で「記念ベンチ」を作るという手法の「思い出ベンチ」事業がある。													
年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標				H17年度達成						
事業・業務量			①整備条件の整理②整備方針の設定③整備手法の検討④整備路線の抽出と概略配置検討⑤ベンチのデザイン検討				①整備条件の整理②整備方針の設定③整備手法の検討④整備路線の抽出と概略配置検討⑤ベンチのデザイン検討						
まちづくり指標			地域住民に親しまれるベンチの整備に向け、「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」を策定する。事業計画をとりまとめる。				地域住民に親しまれるベンチの整備に向け、「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」(案)を策定した。事業計画をとりまとめた。						
①行政指標													
②協働指標													
予算額(千円)			3,000				3,000						
決算額(千円)							2,888						
執行率(%)							96.3%						
年間の実施スケジュール													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
当初計画			着手 ○	【ベンチのある道づくり整備計画(仮称)策定業務					完了 ○				
									着手 ○	【事業計画のとりまとめ】完了			完了 ○
結果			着手 ○	【ベンチのある道づくり整備計画(仮称)策定業務									完了 ○
										愛称募集 パブリックコメント実施			
当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)													
整備計画策定にあたっては、平成18年2月にパブリックコメントを実施し、市民意見を反映させた。 なお、事業計画については、整備計画に含まれるものとなっている。													

事業NO. 614	事業名	「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」の策定②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	--------------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向		「ベンチのある道づくり整備計画(仮称)」案を取りまとめ次第パブリックコメントを実施することとなっている。しかし、このなかで出される意見がどの程度計画の中に網羅できるか不透明である。		
主管課中間				
中間 評 価	コスト面	18年度は本年度よりコストが、	減少する	維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載)
	(理由)	整備計画策定が完了するため。		
	成果面	18年度は本年度より成果が、	増加	維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載)
	(理由)	整備計画策定が完了するため。		
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2	ある	ない その他
	(理由)	整備計画策定が完了するため。		
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)			
	妥当である	意見	今後の事業計画を明確にする必要がある。	
	改善の余地あり			
	抜本的見直し必要			
	改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)			
	重点的に取り組む課題とする。 設置に関しては市だけでなく住民協議会、企業や市民等の協力を得るように取り組むこと。			

### 《事業の事後評価》

事後 評 価	主 管 課	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		理由	計画素案策定後、パブリックコメントを実施した。また、市民に親しんでもらえるようなベンチのネーミングの募集を行った結果、最多意見である「ほっとベンチ」に決定した。市民意見の反映に努めたが、計画の確定は4月にずれ込んだ。		
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
	事 業 後 評 価	理由	ベンチの設置箇所やデザイン等に対し、市民の声を生かすため協働による取り組みを行った。		
		効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低	コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
		理由	本整備計画計画策定業務については、都の補助制度の積極的な活用を図り、当初予算には計上されていなかった補助金を獲得することができた。		
	評 価	総合評価及び次年度の実施方針			
		今後は、本整備計画に基づき、計画的にベンチを設置する。整備費用については、国や都の補助制度の活用を図るほか、市民等から一口5万円の寄付を募る。			
		進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
審 査 会 評 価	効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低	コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
	理由	補助金の獲得により相対的にコスト削減が図られた。ネーミング公募やパブリックコメントの実施も行い市民へのアピールも高かったと考えられる。今後は計画に基づきながら市民に慕われるベンチの設置が望まれる。			
	総合評価				

事業NO. 615	事業名	東京外かく環状道路に関する調査・検討①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

評価対象事業名	東京外かく環状道路に関する調査・検討			部課名	都市整備部 都市計画課			
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第1 - ( ) -	係名	都市計画係	内線	2814
計画事業名				歳出科目	款 8. 土木費	項 4. 都市計画費	目 1. 都市計画総務費	
関連計画				一般会計	事項 東京外かく環状道路計画調査研究費			
				補助区分	国	都	市単独	

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

三鷹市独自の視点から、東京外かく環状道路計画に関して、周辺環境及び市民生活への影響等に関することについて調査・研究を行い、三鷹市のまちづくりへの影響を検証する。

**概要**  
助言者会議の開催  
ジャンクション、インターチェンジ周辺の土地利用変化調査

始期 16 年度から 終期 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0 人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**

平成16年度に「東京外かく環状道路が三鷹市に及ぼす影響調査報告書」を作成したことにより、三鷹市として外環について検討や意思決定のための基礎的データとすることができた。今年度はジャンクション、インターチェンジ周辺の土地利用変化について、調査を行い、報告書の補強を図る。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**

東京外かく環状道路の整備計画に関して、ジャンクションやインターチェンジ周辺環境の土地利用変化を中心に調査を行い、市民生活への影響に関すること等を三鷹市独自の視点から検証する。具体的には年間で4回程度の助言者会議を開催し、調査・検討を行う。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**

周辺環境及び市民生活への影響に関すること等を三鷹市独自の視点から調査・検討を行う。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)**

年度別明細	H 1 5 年度	H 1 6 年度	H 1 7 年度目標	H 1 7 年度達成
事業・業務量		助言者会議の開催(5回) 庁内検討チームによる検討(4回)	助言者会議の開催(3回) 庁内検討チームによる検討(4回)	助言者会議の開催(1回) 庁内検討チームによる検討(4回)
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標		調査報告書の作成	①調査・検討	①調査・検討
予算額(千円)		4,000	900	900
決算額(千円)		3,465		67
執行率(%)		86.6%		7.4%

**年間の実施スケジュール**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画			庁内検討			助言者会議 庁内検討		助言者会議	庁内検討	助言者会議		庁内検討
結果						庁内検討		庁内検討	庁内検討		助言者会議	

**当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)**

本年度の前半は、外環計画に関して大きな進展がなかったことから、6月に予定していた庁内検討を行わなかった。9月には国及び東京都より「外環の考え方」や「計画概念図」が公表され、新たな展開となったため、市民の意見を始め、関係審議会、庁内検討、助言者会議により、三鷹市としての要望書を取りまとめ国及び東京都へ提出して行くこととした。

なお、当初予定していた、インターチェンジ周辺の土地利用の変化に関する調査は、国・都の計画案が具体化するのを見極め、適切な時期に実施することとしたため、今年度は見送った。

事業NO. 615	事業名	東京外かく環状道路に関する調査・検討②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	---------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
国土交通省及び東京都が本年9月に公表した、「東京外かく環状道路(関越道～東名高速間)についての考え方-計画の具体化に向けて-」により、ジャンクションやインタチェンジの具体的な構造案が示されたことから、市への影響や対策について更に検討を進める。	
主管課中間評価	
コスト面	1 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 調査委託費を見込んでいないので、事業費は減少する。
成果面	2 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 助言者会議を開催し、三鷹市に及ぼす影響と対策等について専門的な見地から助言を受ける。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由) 18年度については、委託事業の予定はない。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
妥当である	意見 この方針を基に継続して影響や対策について検討することが望まれる。
改善の余地あり	
抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
評価を踏まえ予算化に努める。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	理由		今年度の前半は、外環に関して大きな進展がなかったことから、助言者会議については1回の開催となったが、庁内検討会議などの確な対応をした。
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
	理由		9月には国及び東京都より「外環の考え方」や「計画概念図」が公表され、新たな展開となったため、市民の意見を始め、関係審議会、庁内検討、助言者会議により、三鷹市としての要望書を取りまとめ国及び東京都へ提出して行くこととした。
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
	理由		特段の経費をかけずに、助言者会議や庁内検討会議で対応していく。
	総合評価及び次年度の実施方針		
	理由		平成18年度前半には、要望書を提出することを目途に事業を行っている。次年度は、都市計画変更に向けたより具体的な手続きに入っていくことが予想されることから、助言者からの助言を受けながら、国や都の動きを注視して行く必要がある。
	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
理由		今後、外環に関する国や都の動きが具体化していくことが予想される。要望の提出等に際しては、きめ細かな対応を継続していくことが望まれる。	
総合評価			

事業NO. 616	事業名	駐輪場整備・運営方針の策定①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	----------------	----------	-------

評価対象事業名	駐輪場整備・運営方針の策定			部課名	都市整備部道路交通課			
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第5・3-(5)-	係名	都市交通係	内線	2883
計画事業名	駐輪場整備方針の策定			歳出科目	款	項	目	
関連計画				会計	事項			
				補助区分	国	都	市単独	

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 中長期的視点から、全市的に駐輪場ニーズの高い地域における駐輪場整備・運営方針を策定し、今後の整備目標と運営の方法を確定する。

**概要** 自転車を重要な市民の移動手段をして位置づけるとともに、多面的な検証を行い、自転車等駐輪場の駐輪台数の推移及び今後の需要予想から、これに基づく自転車等駐輪場の整備及び適正配置と受益者負担を原則とした運営方針を策定する。

始期 17 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人 または 0.0 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**  
中長期的視点から、全市的に駐輪場ニーズの高い地域における駐輪場整備方針を策定し、今後の整備目標を確定する。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
自転車を重要な市民の移動手段をして位置づけるとともに、多面的な検証を行い、自転車等駐輪場の駐輪台数の推移及び今後の需要予想から、これに基づく自転車等駐輪場の整備及び適正配置と各駐輪場の運営方針を策定する。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
駐輪場整備・運営方針を策定することにより、今後の駐輪場の整備目標を定めるとともに、受益者負担の観点から有料化を進めていく。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量			駐輪場整備・運営の方針の策定	駐輪場整備・運営の方針の検討
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標			①駐輪場整備・運営の方針を策定することにより、今後の駐輪場の整備目標と運営の方法を定める。	①条例の一部改正を行い、駐輪場整備・運営方針の策定作業を行うなかで、今後の駐輪場の整備目標と運営の方法の検討を進めた。
予算額(千円)			0	0
決算額(千円)				0
執行率(%)				

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
当初計画				○			駐輪場整備方針の策定						駐輪場整備方針の確定	
							○	自転車等の放置防止に関する条例の一部改正 自転車等駐輪場設置条例の制定						一部有料化
結果				○			駐輪場整備・運営の方針の策定						一部有料化	
							○	自転車等の放置防止に関する条例の一部改正						一部有料化

当初計画変更の内容・理由等 ( 進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 616	事業名	駐輪場整備・運営方針の策定②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	----------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		駐輪場整備・運営の方針を策定し、今後、市有地等の活用を図る中で、受益者負担の観点からの駐輪場の有料化を進めていく。			
主管課中間評価					
中 間 評 価	コスト面	□	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 駐輪場整備・運営の方針を策定することにより、今後の駐輪場の建設及び管理運営の費用を予測することができる。		
	成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 駐輪場の中長期的展望を明確にすることにより、計画的な自転車対策が可能となる。		
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について		2	ある ない その他	
	(理由) 方針の策定のため				
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)					
評 価	妥当である	意見	方針に基づいた事業計画を定める必要がある。		
	改善の余地あり				
	抜本的見直し必要				
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)					

### 〈事業の事後評価〉

主 管 課 事 後 評 価 審 査 会 評 価	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている		
	理由	収容台数及び面積において最大であるさくら駐輪場について文化劇場跡地利用の動向を見ながら策定作業を行っていったこととした。このため、当初計画どおりの進捗はできなかった。			
	成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし		
	理由	効率的な駐輪場運営に向け、指定管理者及び利用料金制を導入することにより、今後の駐輪場運営に一定の方向付けを行うことができた。			
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること		
	理由	整備運営方針の一環である駐輪場の有料化にともない効果的な駐輪場の維持管理が可能となった。			
	総合評価及び次年度の実施方針				
	流動的な駐輪場の状況について、早急に中長期的な整備運営方針を策定する。				
	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている		
	成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし		
効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること			
市民ニーズの変化や有料化の影響等検証しながらの整備・適正配置が望まれる。					
総合評価					



事業NO. 617	事業名	「三鷹駅前地区再開発基本計画」の改定と推進①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

評価対象事業名	「三鷹駅前地区再開発基本計画」の改定と推進				部課名	まちづくり建築課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第2部第6・1-(1)-	係名	再開発		内線	2861		
計画事業名	「三鷹駅前地区再開発基本計画」の改定と推進				歳出科目	款	1.再開発費	項	1.再開発費	目	2.再開発事業費
関連計画	三鷹市中心市街地活性化計画				再開発会計	事項	5三鷹駅前地区再開発基本計画改定事業費				
					補助区分	国	都	市	単独		

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 平成8年3月に策定した三鷹駅前地区再開発基本計画を三鷹駅を取り巻く環境、社会・経済情勢の大きな変化や事業の見直し等に対応するため、改定する。平成13年度に策定した三鷹市基本構想及び平成16年度に改定される第3次基本計画、中心市街地活性化基本計画との整合をとりながら、バリアフリーのまちづくりを推進し、安全で快適な都市空間の創出と地域の活性化を図ることを目的として改定する。

**概要** 市民参加による懇談会及び意見を聞く会等を開催し、その意見を反映しながら年内に基本方針を確定し、17年度中に当該計画を確定する。

始期 14 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0 人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**

当初16年度末の改定を予定していたが、第3次三鷹市基本計画(改定)や土地利用総合計画2010など上位計画との整合を図るため、改定スケジュールを変更し、平成17年度中に改定することとした。計画(改定)の確定にあたっては、市民の意見を聞くとともに、関係各部課と調整を図りながら進めることとする。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**

①まちづくり連絡会の開催、②商店会・商工会との懇談会の開催、③三鷹駅前地区の市民をはじめとした多くの市民等を対象とした意見を聞く会の開催

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**

市民参加を図ったうえで、計画を改定する。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	①まちづくり連絡会開催②商工会・商店会等との懇談会開催③市民より意見を聞く会開催。	素案の確定	計画の改定 ①まちづくり連絡会開催②商工会・商店会等との懇談会開催	完了
まちづくり指標	②基本方針の確定	②素案の確定	②計画の改定	完了
①行政指標 ②協働指標				
予算額(千円)		3,090	147	147
決算額(千円)		1,785		93
執行率(%)		57.8%		63.3%

**年間の実施スケジュール**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画		改定作業	●懇談会 ●まちづくり連絡会				●まちづくり連絡会・懇談会 ●確定 ●まちづくりかわら版発行					
結果		懇談会開催(4/8,4/12) 改定作業					●確定 ●まちづくりかわら版発行					
		まちづくり連絡会4/27										

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 617	事業名	「三鷹駅前地区再開発基本計画」の改定と推進②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		
市民への周知方法。		
<b>主管課中間評価</b>		
コスト面	18年度は本年度よりコストが、	減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載)
(理由)	完了	
成果面	18年度は本年度より成果が、	増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載)
(理由)	完了	
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2	ある ない その他
(理由)	完了	
<b>改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		
	妥当である	意見
	改善の余地あり	
	抜本的見直し必要	
<b>改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		

### 〈事業の事後評価〉

事後評価	主管課	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		理由		当初計画のとおり完了した。
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
	理由		最小限の予算で計画を策定した。	
	効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
	理由		大部分を職員の手作りによる計画改定を行った。	
	総合評価及び次年度の実施方針			
			今後は、改定した再開発基本計画を推進する。	
	審査会	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
効率性・経済性に対する評価		2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
総合評価			今後は計画に基づいた事業の進行管理に努め、適切な事業執行或いは支援が望まれる。	

事業NO. 618	事業名	緑と水の基本計画の策定①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	--------------	----------	-------

評価対象事業名	緑と水の基本計画の策定			部課名	都市整備部緑と公園課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第2・1-(1)-	係名	緑と水係	内線	2833		
計画事業名	「緑と水の基本計画」の策定と推進			歳出科目	款	8.土木費	項	4.都市計画費	目	4.緑化公園費
関連計画				一般会計	事項	9.緑と水の基本計画策定関係費				
				補助区分	国	都	市	単独		

**事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入**

**目的**  
 緑と水に関するまちづくりのマスタープランを策定し、これに基づき緑と水の保全や緑化の推進に関する諸施策を総合的かつ計画的に展開することにより、市内に残る農地・樹林地等の緑や地下水・湧水、地域文化財の保全、身近な緑の創出を図り、緑豊かな高環境のまちづくりを進め、市民に対して快適でうるおいのある良好な生活環境を提供する。

**概要**  
 緑と水のまちづくりにおける目標とその実現のための施策の展開、緑と水の都市基盤(公園、緑化、河川等の水辺など)の整備計画を内容とする緑と水のマスタープランを策定する。計画の策定にあたっては、平成14年度に市民検討会議より提案がなされた計画の基本的事項や方向性、行動計画を取りまとめた最終報告書を基に、関係部局や各委員会と意見調整を行うとともに関連計画との整合を図りつつ、市民参加により進めていく。

始期 13 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 0.3 人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**  
 第3次三鷹市基本計画及び土地利用総合計画の改定作業と整合を図るため、策定スケジュールの見直しを行っており、平成17年度当初には計画を策定する。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
 環境保全審議会等における検討を経て、計画を策定する。また、計画策定後には広報特集号を発行し、計画内容の周知を図る。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
 緑と水の基本計画を策定し、事業を達成する。

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	推進会議1回	推進会議2回 まちづくり懇談会8回	計画の策定 広報特集号の発行	計画の策定 広報特集号の発行
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	②計画案の検討	②計画案の作成	②計画の策定	②計画の策定
予算額(千円)	1,671	893	1,981	2,139
決算額(千円)	479	746		2,128
執行率(%)	28.7%	83.5%		99.5%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	環境保全審議会	環境保全審議会	建設委員会 広報特集号発行 計画の確定										
結果	環境保全審議会	環境保全審議会	建設委員会 計画の確定										広報特集号の発行

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 618	事業名	緑と水の基本計画の策定②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	--------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		
「緑と水の基本計画」の計画の実践		
主管課中間評価		
中 間 評 価	コスト面	18年度は本年度よりコストが、 減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 計画策定完了
	成果面	18年度は本年度より成果が、 増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 計画策定完了
	今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について 2 ある ない その他 (理由) 計画策定完了	
	改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
	妥当である	意見
	改善の余地あり	
	抜本的見直し必要	
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)		

### 〈事業の事後評価〉

事 後 評 価	主 管 課	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 計画については当初予定通りに策定したが、広報特集号の発行は年度末になってしまった。	
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 計画を策定し、当初の目標を達成した。	
		効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 当初予定通りに計画を策定した。	
	総合評価及び次年度の実施方針 当初予定通りに計画を策定した。				
	評 査 会	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
		効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
		計画に基づき、市民参加を得ながらの事業の進行が望まれる。			
		総合評価			

事業NO. 619	事業名	新川児童公園改修整備①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	-------------	----------	-------

評価対象事業名	新川児童公園改修整備			部課名	都市整備部緑と公園課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第3部第2・4-(1)-	係名	公園係	内線	2835		
計画事業名	公園緑地の改修・拡充整備の実施			歳出科目	款	8土木費	項	4都市計画費	目	4緑化公園費
関連計画	三鷹市都市公園条例 安全で安心な公園づくりガイドライン			一般会計	事項	19 都市公園整備事業費				
				補助区分	国	都	市単独			

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入する。  
仙川を軸とした周辺公園緑地とのネットワーク化を実現し、児童や公園利用者に健全な遊び場を提供し、その健康を増進させる。

**概要** 既存の老朽化した公園を、バリアフリーに重点を置いた改修を行い公園の有効化を図り、開園後の維持管理においても住民参加を積極的に働きかけるように努める。

始期	17	年度から	終期	17	年度まで	当該事務に従事する実職員数	1.5人	または	時間
----	----	------	----	----	------	---------------	------	-----	----

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
1,982㎡の新川児童公園を「安全で安心な公園づくりガイドライン」に基づき改修を行う。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
都市公園としての開園面積(供用開始による市民開放の状況を確認する指標)

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量			整備面積 1,982㎡ 住民説明 トイレ新設 遊具改修	整備面積 1,982㎡ 住民説明 トイレ新設 遊具改修
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標			①開園面積 1,982㎡	①開園面積 1,982㎡
予算額(千円)			24,985	24,985
決算額(千円)				22,974
執行率(%)				92.0%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画					調査・設計 住民説明			起工 → 工事入札・契約					竣工 → 完了検査
結果					調査・設計 住民説明			起工 → 工事入札・契約					竣工 → 完了検査

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 619	事業名	新川児童公園改修整備②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	-------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		
公園利用方法に対する付近住民への説明		
<b>主管課中間評価</b>		
コスト面	1	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 整備完了のため
成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) バリアフリーの公園として生まれ変わるため
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2	ある ない その他 (理由) 現在民間委託を実施している。
<b>改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		
	妥当である	意見 周辺住民の説明のみならず、「安全で安心な公園づくりガイドライン」に基づき、市民の意見を取り入れるなどの取組みを明確化することが望ましい。
	改善の余地あり	
	抜本的見直し必要	
<b>改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		

### 〈事業の事後評価〉

事後評価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 公園利用者や近隣住民の協力もあり、リニューアル公園の全面閉鎖による工事が実施でき、計画どおり完了した。
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 バリアフリーのトイレ・公園外周歩道へのベンチ設置・スロープに木の温もりを感じる手すりの設置等これから三鷹市が実践すべき施策を公園整備に取り入れた。
	効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取組みを理由に記載すること 理由 公園造成に必要な土を、他の公園から搬出した残土を再利用した。また斜面地の土留めに、伐採した樹木を利用し自然との調和を図りつつ木材の処分費を軽減した。
	総合評価及び次年度の実施方針		公園のリニューアルにより、地域住民の関心を集め、公園ボランティアの申し出があった。また、過去の要望・陳情等を一つずつ整備内容に反映したため、近隣住民及び要望者の満足も得られた。しかし、今後の課題としては、トイレ新設の際、設置時点で反対意見が出た施設の維持管理に十分配慮しなければならない。
	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし
	効率性・経済性に対する評価	1	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取組みを理由に記載すること
	総合評価		残土や伐採樹木、既存の設備の再利用等はコストの削減だけでなく環境への配慮にもつながることなので今後もこの手法を取り入れていくことが望まれる。
	審査会		
	評価		

事業NO. 620	事業名	東部下水処理場の流域下水道等への編入の協議①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

評価対象事業名	東部下水処理場の流域下水道等への編入の協議			部課名	都市整備部下水道課				
基本計画掲載	あり	なし	体系	第4部第3・4-(1)-	係名	管渠維持係	内線	2875	
計画事業名	東部下水処理場の流域下水道等への編入の協議			歳出科目	款	項	目		
関連計画				会計	事項				
事業の目的・概要	<p>目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入</p> <p>単独処理区にある東部下水処理場を東京都流域下水道に編入することで都と市が一体となった広域的な下水処理が可能となり、維持管理費の縮減および水質保全の向上が図れる。</p> <p>現有施設の更新時期を勘案し、費用対効果や水質の向上の観点で踏まえ「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画」との整合を図りながら東京都流域下水道への編入に向けて都と協議していく。</p>								
始期	14	年度から	終期	27	年度まで	当該事務に従事する実職員数	1.0人	または	時間

16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点

今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明  
 「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」において専門部会を1回、検討会を1回開催する。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明  
 「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」の報告書を取りまとめる。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)  
 三鷹市と同様に単独処理区をもつ八王子市・立川市も「検討会」を設置し、編入に関する検討を行っている。

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」での検討	「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」での検討	専門部会を1回、検討会を1回開催	関係者協議を5回開催
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	①「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」での検討 ②「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」での検討	①「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」での検討	①「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」の報告書を取りまとめる。	①「三鷹市単独処理区の流域下水道編入に関する検討会」の報告書(案)のとりまとめ
予算額(千円)	3,150	0	0	0
決算額(千円)	2,835	0		0
執行率(%)	90.0%	0.0%		

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画							「検討会」での検討					報告書のとりまとめ	○
結果							「検討会」での検討					報告書(案)のとりまとめ	○

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 620	事業名	東部下水処理場の流域下水道等への編入の協議②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

### 〈事業の中間評価〉

中間評価時の課題と次年度の改善方向		
「検討会」委員が1年で人事異動となり、新しい委員に対する再説明に多くの時間を要することとなった。		
<b>主管課中間評価</b>		
コスト面	2	18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 事前協議の資料作成に委託が必要である。
成果面	1	18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 編入方針の市決定により編入の実現に一步前進する。
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	1	ある ない その他 (理由) 調査、実施設計及び認可変更に委託が必要である。
<b>改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		
	妥当である	意見 適切な進行管理に基づき協議を進めることが望まれる。
	改善の余地あり	
	抜本的見直し必要	
<b>改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)</b>		

### 〈事業の事後評価〉

事後評価	主管課	進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている 理由 「検討会」委員の人事異動に伴い、新委員への再説明に多くの時間を要したため、専門部会、検討会の開催ができなかった。	
		成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし 理由 報告書(案)のとりまとめまでできたが、最終的なとりまとめには至らなかった。	
		効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること 理由 関係者事前協議を5回行ったが、専門部会、検討会の開催までには至らなかった。	
	審査会	総合評価及び次年度の実施方針			報告書のとりまとめができなかったのととりまとめに向けたさらなる取り組みが必要といえる。
		進捗状況評価	2	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている	
		成果に対する評価	2	大<目標の指標等を達成> 中・ 小又はなし	
		効率性・経済性に対する評価	2	高・ 中・ 低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること	
	総合評価	引き続き早期に編入のための計画ができるよう東京都との協議を進める必要がある。			



事業NO. 621	事業名	三鷹駅南口第12地区協同ビル建設事業の支援①	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

評価対象事業名	三鷹駅南口第12地区協同ビル建設事業の支援			部課名	まちづくり建築課					
基本計画掲載	あり	なし	体系	第2部第6・2-(7)-	係名	再開発	内線	2861		
計画事業名	三鷹駅南口第12地区協同ビル建設事業の支援			歳出科目	款	1.再開発費	項	1.再開発費	目	2.再開発事業費
関連計画	三鷹駅前地区再開発基本計画			再開発会計	事項	2再開発事業用地取得事業費				
				補助区分	国	都	市	単独		

**事業の目的・概要** 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

**目的** 第12地区協同ビル建設予定地区は、老朽化した低層木造家屋や駐車場など、防災性が確保されておらず、土地の高度利用も図られていない。このため、土地の高度利用と防災性を備えた協同ビルの建設において、計画的な商業・業務環境と住環境の集積を行うように誘導・支援する。また、駅前広場の地権者、借家人の代替受皿としての活用を図るとともに、駅前広場の一体的な整備を行う。さらに、三鷹駅前市政窓口の移転や「三鷹ネットワーク大学」などを設置することにより、市民サービスの向上につなげる。

**概要** 都市再生機構が事業主体となり、市を含む関係地権者において、等価交換方式による協同ビル化を図る。市は、地権者として参画するとともに、優良建築物等整備事業に採択し支援を行っていく。当該ビルは商業・業務施設と住宅で構成され、地下には駐輪場・駐車場を配置するよう誘導する。平成17年5月の完成、6月の施設オープンする予定である。

始期 8 年度から 終期 17 年度まで 当該事務に従事する実職員数 0.5 人 または 時間

**16年度事業評価の結果・指摘等を踏まえた、本年度の改善点**  
 建築工事が予定より遅れたものの、平成17年5月の完成、同6月の施設オープンの予定は変わらない。業務床の「三鷹ネットワーク大学(仮称)」の活用及び駅前市政窓口の移転について、関係部署と共に仕様、運営方法等の検討を行う。

**今年度の事業・業務量(活動内容・量の指標)の説明**  
 ①平成17年5月末竣工、6月に保留床の取得、売却等を行う。②駅前広場整備の地権者及び借家人に対し代替床として活用する。

**今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明**  
 工事完了、施設オープン

**他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)**

年度別明細	H15年度	H16年度	H17年度目標	H17年度達成
事業・業務量	駅前広場の受け皿である地権者・借家人と調整。公益施設の仕様運営方法の検討。工事着工	①保留床の取得②公益施設の設置に係る施設譲渡契約の締結、③駅前広場整備の代替床として活用するための仕様・条件等の整理	①1、2階部分取得、売払い・2階部分賃貸借契約・3階部分取得	完了
まちづくり指標 ①行政指標 ②協働指標	①等価交換契約	①保留床の取得 ②建設工事の進捗を図るための支援	①施設オープン	完了
予算額(千円)	0	0	77,950	77,950
決算額(千円)	0	0		77,950
執行率(%)	0.0%	0.0%		100.0%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	建設工事			●									
				●									
結果	建設工事			●									
				●									

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 621	事業名	三鷹駅南口第12地区協同ビル建設事業の支援②	〈部内管理事業〉	都市整備部
-----------	-----	------------------------	----------	-------

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善方向	
予定どおり平成17年5月に完成し、6月より施設オープンしている。	
主管課中間評価	
コスト面	1 18年度は本年度よりコストが、減少する 維持 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 完了
成果面	1 18年度は本年度より成果が、増加 維持 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 完了
今後の委託等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある ない その他 (理由) 完了
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	
	妥当である 意見
	改善の余地あり
	抜本的見直し必要
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成17年度の取り組みに対する意見)	

### 《事業の事後評価》

事後評価	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	理由		当初計画のとおり完了した。
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	理由		駅前広場Bデッキの完成にあわせて協同ビルについても施設オープンした。2階に駅前市政窓口、3階に三鷹ネットワーク大学がオープン。
	効率性・経済性に対する評価	2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
	理由		駅前整備事業従前地権者の受け皿として、また、中心市街地活性化に寄与する施設として順調に滑り出した。
	総合評価及び次年度の実施方針		駅前広場に接続した協同ビルとして、三鷹駅の顔となるような運用方法が望まれる。
	進捗状況評価	1	当初計画どおり<計画以上の進捗を含む> 若干遅れている 大きく遅れている
	成果に対する評価	1	大<目標の指標等を達成> 中・小又はなし
	効率性・経済性に対する評価	2	高・中・低 コスト削減した場合は、その取り組みを理由に記載すること
理由		事業の完了となったが、今後は駅前広場に面する立地も活かしつつ様々な運用が望まれる。	
総合評価			